

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市水とみどりの審議会				
事務局 (担当課)		水みどり環境課 電話042-769-8242(直通)				
開催日時		平成29年11月17日(金) 14時20分～17時00分				
開催場所		相模原教育会館1階 小会議室(3)				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	8人(環境共生部長、水みどり環境課長、他6人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 会長・副会長の選出について (2) 水とみどりの基本計画と審議会の概要について (3) 相模原市水とみどりの基本計画改訂版 = 生物多様性さがみはら戦略 = 実績報告書(平成28年度版)(案)について (4) 相模原市緑化条例の改正について (5) 市民協働によるモニタリング調査について (6) 次期相模原市水とみどりの基本計画の策定について 3 その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 会長・副会長の選出について

委員の互選により、会長に田淵委員を、副会長に高橋委員をそれぞれ選出した。

(2) 水とみどりの基本計画と審議会の概要について

事務局から、説明を行った。

(3) 相模原市水とみどりの基本計画改訂版 = 生物多様性さがみはら戦略 = 実績報告書 (平成28年度版) (案) について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

評価がDとなっている高度処理型浄化槽の設置や雨水浸透ますなどの下水関係の施策は、区ごとに評価しているのか。

区ごとではなく、全市的な評価である。

今後、評価を上げるためにどのような取組を考えているのか。

浄化槽整備促進、普及のために、平成28年度から工事店制度という新たな制度を導入している。また、下水道整備においては、前年度と同様に水源環境交付金を活用して、事業を進めている。個人負担での設置となるという事情はあるものの、御理解をいただきながら取り組んでいきたいと考えている。

高度処理型浄化槽とはどういうもので、価格はどのくらいなのか。

合併処理浄化槽と仕組みは同じであるが、処理機能がより高いものである。価格については不明だが、合併処理浄化槽よりも高額となる。

価格が高いが、それに見合った処理能力があることを周知する必要があると考えられる。

浄化槽を設置するのは個人の敷地の中であるため、敷地の問題などの理由で事業が進まないという課題もあるが、今後も継続して施策を推進していく。

施策コード1133「外来種の生息・生育状況の把握と防除の推進」について、昨年の審議会で被害状況を鑑みて評価をするようにという意見があったと思うが、今回はどのようになっているのか。

捕獲頭数を目標とせずに、実際の被害状況を鑑みた上で捕獲していくという年度計画になっている。

特定外来種のアライグマについては、本来は根絶を目標とすることが望ましい。生息数に対する捕獲数を出すことが良い。生息数を把握するためには多額の予算がかかるものの、生息数が少ないうちに根絶することで、トータルの予算は大幅に削減されると思う。

特定外来生物のアライグマと、生活被害が中心のハクビシンは、次回の計画の時には施策を分けた方が良いかもしれない。

施策コード 1136「野生動物の保護などを目的とした施設建設の検討」について、整備検討委員会の中で理念や予算から細かく議論することが必要と考えられる。

課題が多くあることは承知しているが、検討会に参加する中で、(仮称)動物愛護センターでの野生鳥獣保護の可否などについて検討を深めていく。

施策コード 4123「魚類の放流や河川を再生させる取組による生態系の保全活動の推進」について、生態系を保全するのであれば、生息域の改善を行うべきである。具体的には川辺の植生を増やすことや魚道を設けることなどが考えられる。魚類の放流が弊害を起こす事例も多く見られる。

現在の取組は、市民が魚に触れ合い、川辺の環境保全についての理解を深めるための一助になっていると考えている。稚魚の放流が生態系保全につながるかについては今後の課題とし、次期計画策定などを通じて施策のあり方を検討したいと考えている。なお、放流している稚アユは、相模湾で捕獲されたものを仕入れている。

実績報告書では、A評価とした理由を分かりやすく記載した方が良い。

修正する。

施策コード 1321「里地里山の自然景観と調和した地域文化や伝承の継承」について、コスモスなどの園芸種の種をまくことは、推進施策と合致しないのではないかな。

里地里山エリア全体に種をまいているわけではなく、近隣の小学校と連携し、学校教育の一環として荒廃地をなくすために種をまいている。

荒廃地をなくすために行っていることは理解できるが、施策項目の推進としては違和感もある。

実績報告書の記載方法について検討する。

施策コード 2213、3124「(仮称)城山公園の整備」について、10年くらい施策が進んでいない。現在は森林になっており、不法投棄が多々ある。今年度の評価はCだが、今後、D評価になってしまうことも考えられるため、何らかの対策を検討した方が良いのではないかな。

施策コード 1311「地域住民による里地里山の保全・活用や都市地域の住民との交流事業、活動団体の支援など」について、今年度は企業CSR活動が1社となっているが、今後拡大していく必要があるのではないかな。

企業CSR活動以外にも、NPOや大学と連携して、他の地域に住んでいる人などを募集してイベントを行っていると聞いている。今後も更に輪を広げていければ良いと考えている。

施策コード1232「林業の担い手対策、地場産木材の活用・流通システム、林道整備など、森林整備により伐採された木材を搬出・加工し、市内で消費していく循環の再構築」について、B評価となっている。木質バイオマスボイラの導入については、どうなっているのか。また、市では街路樹などの剪定枝を処分していると思うが、それらを木質バイオマスボイラの燃料にすることはできないのか。

木質バイオマスボイラの導入については、依然検討中である。また、街路樹の剪定枝などは、堆肥化して活用している。

施策コード2218「湖月荘跡地の整備」について、公園になることが決まっているのか。

現在、公園課で地元の意見などを聞きながら検討している。平成28年度時点では方向性は決まっておらず、今後も検討を継続していく。

施策コード5123「ボランティアなどの活動拠点の施設整備の検討」について、評価がCとなっているが、どのように考えているのか。

他市の状況を調査しているが、本市における位置付けについては決定していない。今後も検討を続けていく。

資料の必要な修正については、会長の一任とする。

(4) 相模原市緑化条例の改正について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

外来生物等による生態系等に係る被害という表現ではなく、外来生物等による生物多様性に対する影響の防止といった表現の方がよいのではないかと。

外来生物等の「等」も不要ではないかと。

ご意見に基づき、関連する文言も含めて修正させていただきたい。

修正した答申書をもって、審議会を代表して会長が答申を行うことについて、出席委員全員異議はない。

(5) 市民協働によるモニタリング調査について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

候補となる団体からは、すでに内諾をいただいているのか。

現在、交渉を進めている段階であるが、一部の団体からは、ご協力をいただける旨のご回答をいただいている。

(6) 次期相模原市水とみどりの基本計画の策定について
事務局による説明の後、質疑応答を行った。(質疑なし)

3 その他

事務局から、次回の会議日程等について説明した。

以 上

水とみどりの審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田淵 俊人	玉川大学農学部 教授	会長	出席
2	南 正人	麻布大学獣医学部 准教授		出席
3	吉永 龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授		欠席
4	鈴木 千景	公募委員		出席
5	秋永 真里子	特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会 理事		出席
6	飯塚 裕美	特定非営利活動法人みどりのお医者さん		出席
7	熊谷 達男	「小松・城北」里山をまもる会 副会長		出席
8	高橋 孝子	特定非営利活動法人相模原こもれび 理事長	副会長	出席
9	野尾 睦彦	相模原商工会議所 3号議員 (東京ガス株式会社神奈川西支店 支店長)		出席